



上智大学  
SOPHIA UNIVERSITY

# 「グローバル化に対応した人材の育成と 英語教育」

吉田研作

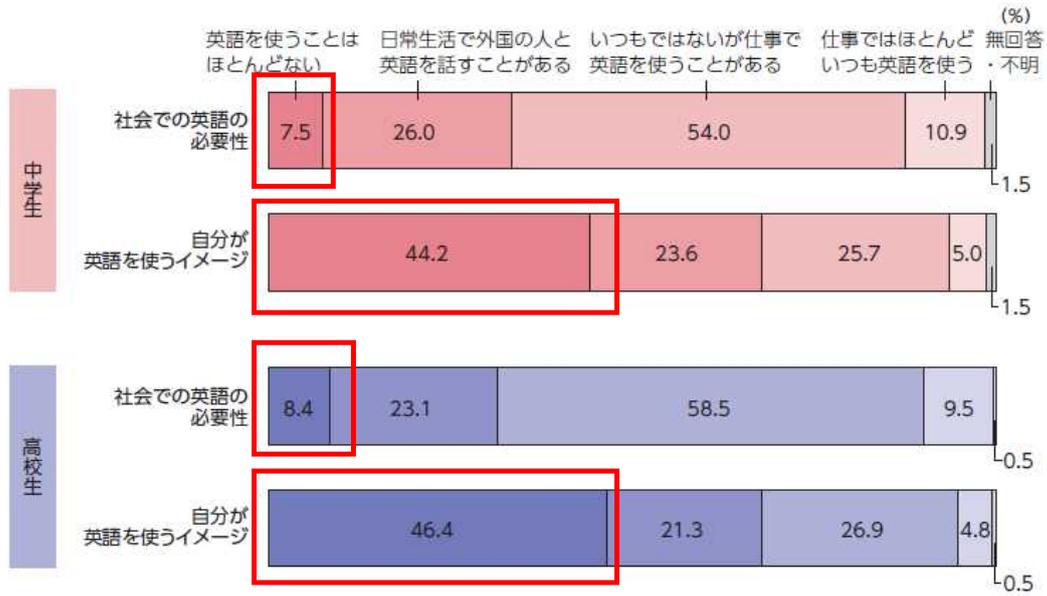
---

外国語（英語）に対する自信のなさ



あなたが大人になったとき、①社会ではどれくらい英語を使う必要がある世の中になっていると思いますか。また、②あなた自身はどれくらい英語を使っていると思いますか。

図4-1 社会での英語の必要性和自分が英語を使うイメージ



中高生の英語学習に関する実態調査2014（ベネッセ、2015）

## 英語教育の現状

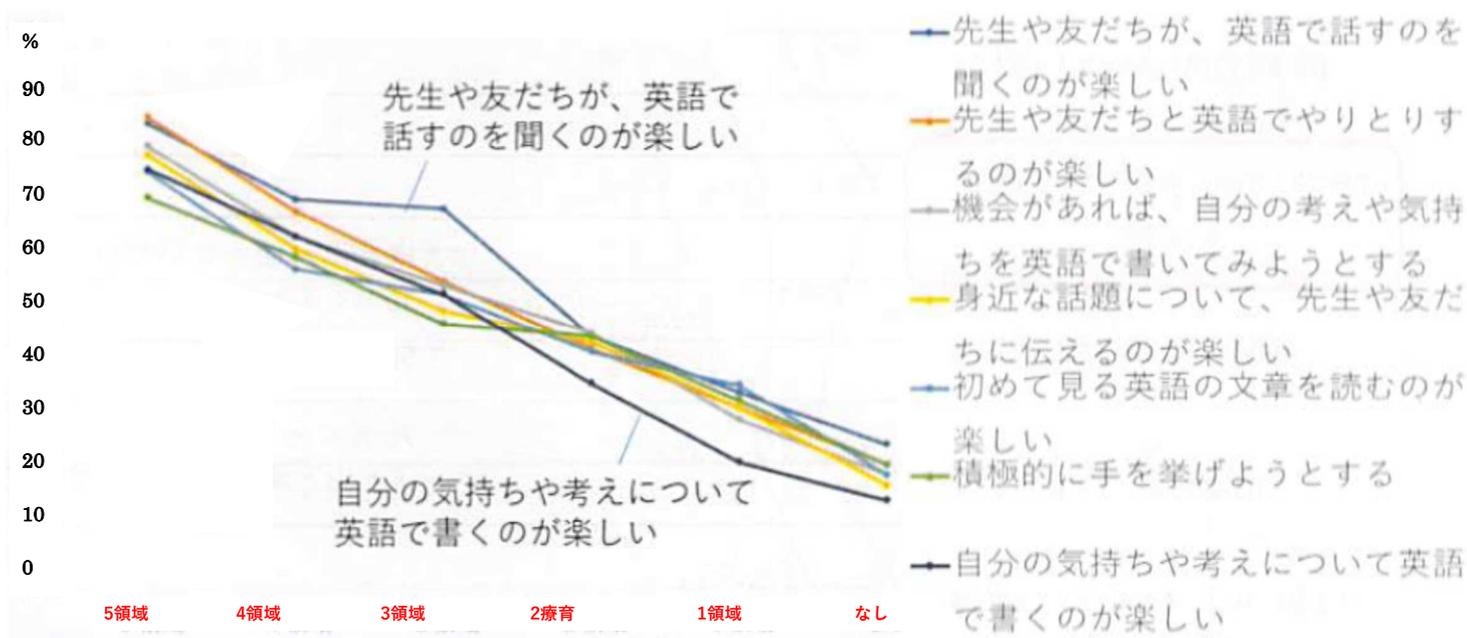
平成30年英語教育実施状況調査

## ■生徒の英語力に関する指標と相関が見られる調査項目

中学生 (CEFR A1レベル (英検3級) 相当以上)	高校生 (CEFR A2レベル (英検準2級) 相当以上)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小中連携の実施 (特に小中連携カリキュラム作成)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ICTを活用している学科の割合</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教師が発話を概ね (75%以上) 英語で行っている割合</li> <li>・ 授業の大半 (75%以上) で生徒の言語活動を行っている学校の割合</li> <li>・ 話すこと・書くことのパフォーマンス評価の実施割合</li> <li>・ ICTを「話すこと」の言語活動に活用している学校の割合</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ CEFR B2相当以上の資格を有する教師の割合</li> <li>・ ALTを活用した授業時数の割合</li> <li>・ 「話すこと」「書くこと」のパフォーマンステスト (評価) を実施する学科の割合</li> <li>・ 授業の半分以上で生徒の言語活動を行っている学科の割合</li> <li>・ 教師が発話の半分以上を英語で行っている学科の割合</li> </ul>
等	等

## 中学生から見た英語の授業

ベネッセ (2018)



## 統合的・総合的コミュニケーション活動の重要性

現行の学習指導要領で示されている、統合的な言語活動を行っている学校の方が、「話すこと」「書くこと」だけでなく「聞くこと」「読むこと」の得点も高い。

平成29年度 英語力調査結果(高校3年生)の概要 (2017)

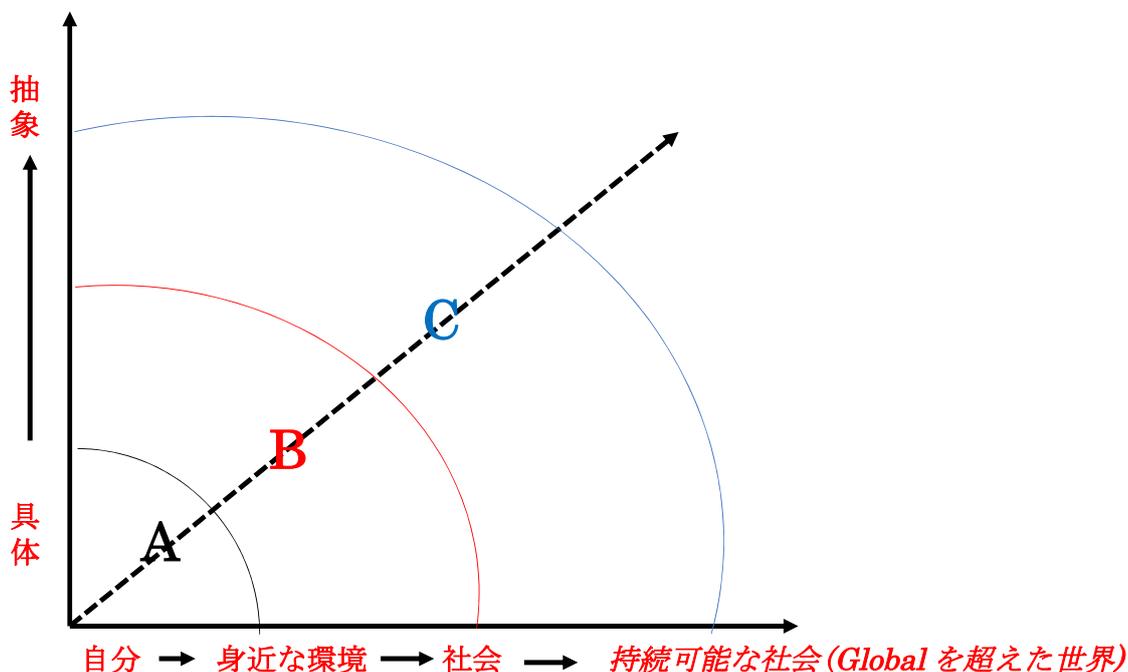
# CEFRの考え方

## Common European Framework of Reference (ヨーロッパ言語共通参照枠)

ヨーロッパにおける外国語学習者の外国語習得状況を示す**ガイドライン**。  
欧州評議会が「**ヨーロッパ市民のための言語学習**」プロジェクトを推進し、  
CEFRがその共通の枠組となった

**CEFRの目的** = ヨーロッパのすべての言語に適用できるような学習状況の評価や指導を提供すること。

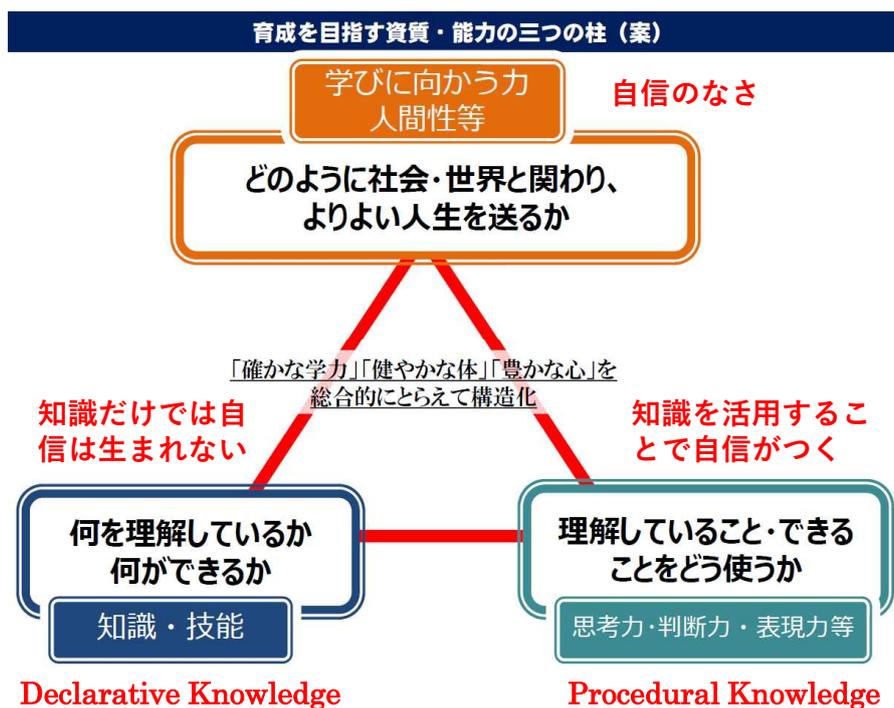
何歳になっても、どのような状況にでも適用できる指標であり、**生涯学習**の大切な基準作りを提供している。



## Can-do statements 'GLOBAL Scale'

段階	CEFR	能力レベル別に「何ができるか」を示した熟達度一覧
熟達した言語使用者	C2	聞いたり読んだりした、ほぼ全てのものを容易に理解することができる。いろいろな話し言葉や書き言葉から得た情報をまとめ、根拠も論点も一貫した方法で再構築できる。自然に、流暢かつ正確に自己表現ができる。
	C1	いろいろな種類の高度な内容のかなり長い文章を理解して、含意を把握できる。言葉を探しているという印象を与えずに、流暢に、また自然に自己表現ができる。社会生活を営むため、また学問上や職業上の目的で、言葉を柔軟かつ効果的に用いることができる。複雑な話題について明確で、しっかりとした構成の詳細な文章を作ることができる。
自立した言語使用者	B2	自分の専門分野の技術的な議論も含めて、抽象的な話題でも具体的な話題でも、複雑な文章の主要な内容を理解できる。母語話者とはお互いに緊張しないで普通にやり取りができるくらい流暢かつ自然である。幅広い話題について、明確で詳細な文章を作ることができる。
	B1	仕事、学校、娯楽などで普段出会うような身近な話題について、標準的な話し方であれば、主要な点を理解できる。その言葉が話されている地域にいるときに起こりそうな、たいいてい事態に対処することができる。身近な話題や個人的に関心のある話題について、筋の通った簡単な文章を作ることができる。
基礎段階の言語使用者	A2	ごく基本的な個人情報や家族情報、買い物、地元の地理、仕事など、直接的関係がある領域に関しては、文やよく使われる表現が理解できる。簡単で日常的な範囲なら、身近で日常の事柄について、単純で直接的な情報交換に応じることができる。
	A1	具体的な欲求を満足させるための、よく使われる日常的表現と基本的な言い回しは理解し、用いることができる。自分や他人を紹介ことができ、住んでいるところや、誰と知り合いであるか、持ち物などの個人的情報について、質問をしたり、答えたりすることができる。もし、相手がゆっくり、はっきりと話して、助けが得られるならば、簡単なやり取りをすることができる。

# 新学習指導要領の基本的な考え方



## 見方・考え方

「外国語で表現し伝え合うため、外国語やその背景にある文化を、社会や世界、他者との関わりに着目して捉え、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて、情報を整理しながら考えなどを形成し、再構築すること」

---

## 新学習指導要領のポイント

## 聞くこと (Listening Comprehension)

### 中学

#### 聞くこと (目標)

- ア はっきりと話されれば、日常的な話題について、必要な情報を聞き取ることができるようにする。
- イ はっきりと話されれば、日常的な話題について、話の概要を捉えることができるようにする。
- ウ はっきりと話されれば、社会的な話題について、短い説明の要点を捉えることができるようにする。

#### Declarative Knowledge

#### 聞くこと (言語活動)

- (ア) 日常的な話題について、自然な口調で話される英語を聞いて、話し手の意向を正確に把握する活動。
- (イ) 店や公共交通機関などで用いられる簡単なアナウンスなどから、自分が必要とする情報を聞き取る活動。
- (ウ) 友達からの招待など、身近な事柄に関する簡単なメッセージを聞いて、その内容を把握し、適切に応答する活動。
- (エ) 友達や家族、学校生活などの日常的な話題や社会的な話題に関する会話や説明などを聞いて、概要や要点を把握する活動。また、その内容を英語で説明する活動。

#### Procedural Knowledge

## 英語コミュニケーション I (高校)

#### 聞くこと (目標)

ア 日常的な話題について、話される速さや、使用される語句や文、情報量などにおいて、多くの支援を活用すれば、必要な情報を聞き取り、話し手の意図を把握することができるようにする。

イ 社会的な話題について、話される速さや、使用される語句や文、情報量などにおいて、多くの支援を活用すれば、必要な情報を聞き取り、概要や要点を目的に応じて捉えることができるようにする。

#### Declarative Knowledge

#### 聞くこと (言語活動)

(ア) 日常的な話題について、話される速さを調整されたり、基本的な語句や文での言い換えを十分に聞いたりしながら、対話や放送などから必要な情報を聞き取り、話し手の意図を把握する活動。また、聞き取った内容を話したり書いたりして伝え合う活動。

(イ) 社会的な話題について、話される速さを調整されたり、基本的な語句や文での言い換えを十分に聞いたりしながら、対話や説明などから必要な情報を聞き取り、概要や要点を把握する活動。また、聞き取った内容を話したり書いたりして伝え合う活動。

#### Procedural Knowledge

# 読むこと (Reading Comprehension)

## 中学

### 読むこと (目標)

- ア 日常的な話題に関して、簡単な語句や文で書かれたものから**必要な情報を読み取る**ことができるようにする。
- イ 日常的な話題に関して、簡単な語句や文で書かれた**短い文章の概要を捉える**ことができるようにする。
- ウ 社会的な話題に関して、簡単な語句や文で書かれた**短い文章の要点を捉える**ことができるようにする。

### 読むこと (言語活動)

- (ア) 書かれた内容や文章の構成を考えながら黙読したり、その内容を表現するよう音読したりする活動。
- (イ) 日常的な話題について、簡単な表現が用いられている**広告やパンフレット、予定表、手紙、電子メール、短い文章**などから、自分が必要とする**情報を読み取る**活動。
- (ウ) 簡単な語句や表現を用いて書かれた日常的な話題に関する**短い説明やエッセイ、物語**などを読んで概要を把握する活動。
- (エ) 簡単な語句や表現で書かれた社会的な話題に関する説明などを**読んで、イラストや写真、図表**なども**参考にしながら、要点を把握する**活動。また、その内容に対する**賛否や自分の考えを述べる**活動。

Declarative Knowledge

Procedural Knowledge

## 高校

### 読むこと (目標)

- ア 日常的な話題について、使用される語句や文、情報量などにおいて、多くの支援を活用すれば、**必要な情報を読み取り**、書き手の意図を把握することができるようにする。
- イ 社会的な話題について、使用される語句や文、情報量などにおいて、多くの支援を活用すれば、**必要な情報を読み取り、概要や要点を目的に応じて捉える**ことができるようにする。

### 読むこと (言語活動)

- (ア) 日常的な話題について、基本的な語句や文での言い換えや、書かれている文章の背景に関する説などを十分に聞いたり読んだりしながら、**電子メールやパンフレット**などから**必要な情報を読み取り**、書き手の意図を把握する活動。また、**読み取った内容を話したり書いたりして伝え合う**活動。
- (イ) 社会的な話題について、基本的な語句や文での言い換えや、書かれている**文章の背景に関する説明**などを十分に聞いたり読んだりしながら、**説明文や論証文**などから**必要な情報を読み取り**、概要や要点を把握する活動。また、**読み取った内容を話したり書いたりして伝え合う**活動。

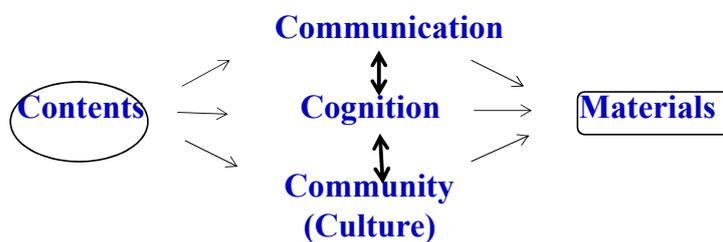
Declarative Knowledge

Procedural Knowledge

# 内容の重要性

## CLIL (content and language integrated learning)

### Theme-based syllabus



**Language 'of' learning**

テーマ学習に必要な言語

VS

### Scaffolding

Teacher talk  
Visual and non-linguistic Aids  
Promoting Students' Autonomy  
Promoting pair/group work  
Coping with students' errors

**Language 'for' learning**  
(思考力・判断力・表現力)

どのテーマにも共通に必要な言語力

**Language 'through' learning**

結果として身につけてほしい言語力

## Language of Learning

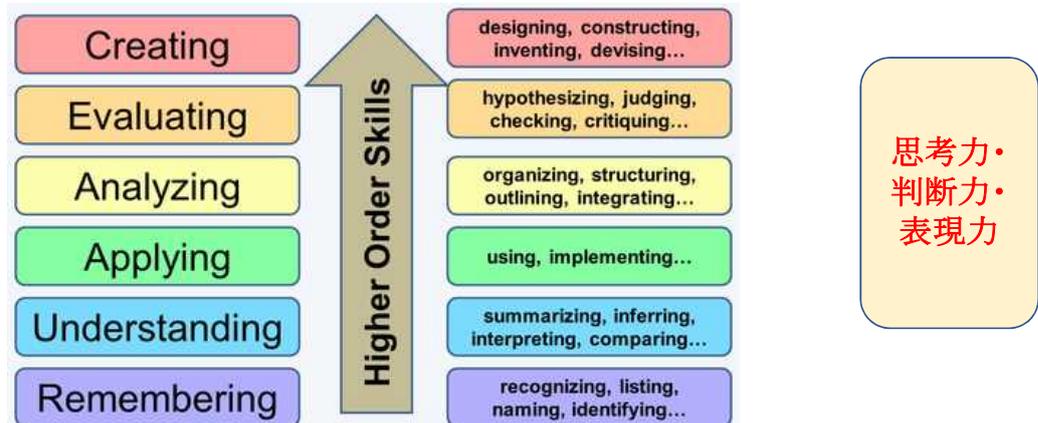
学ぶ内容によって人用となる言語表現が変わる

e.g.

日本学, 国際関係, 言語と文化, 自然科学, テクノロジー, 心理学, 人工知能 (AI), 美術, 音楽, 文学, スポーツ

## Language for Learning

LOTS to HOTS = 内容と関係なく共通



\*Scott Brande ezsnips

## Language through Learning

コミュニケーション力の育成

他者との関わりを考慮したコミュニケーション力 (\*pragmatics)

*“Declarative knowledge” よりも “Procedural knowledge” を重視*

*Communication Strategies*

*コミュニケーションの内容議論できる交渉*



Active Learningを通してしか育成できない

## References

Benesse (2018) 「中学生から見た英語の授業」 <https://berd.benesse.jp/global/research/detail1.php?id=5368>

文部科学省 「小学校学習指導要領」  
「中学校学習指導要領」  
「高等学校学習指導要領」  
「児童生徒の学習評価の在り方について（これまでの議論の整理（案））」  
「英語力評価及び入学者選抜における英語の資格・検定試験の活用促進に関する連絡協議会 資料」  
「平成29年度 英語力調査結果(高校3年生)の概要」  
[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/kokusai/gaikokugo/\\_icsFiles/afieldfile/2018/04/06/1403470\\_03\\_1.pdf](http://www.mext.go.jp/a_menu/kokusai/gaikokugo/_icsFiles/afieldfile/2018/04/06/1403470_03_1.pdf)  
「日本の子供たちの自己肯定感が低い現状について」  
「平成30年度英語教育実施状況調査（[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/kokusai/gaikokugo/1415042.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/kokusai/gaikokugo/1415042.htm)）」  
渡部、池田、和泉 伸一(2011)「CLIL(クリル) 内容言語統合型学習 上智大学外国語教育の新たなる挑戦 第1巻 原理と方法」(ぎょうせい)